

## 各 駅 の 変 遷

駅 名	備 考 欄
吉良吉田 (三河吉田)	<p>所在地→西尾市吉良町吉田船戸5(旧・幡豆郡吉良町大字吉田字船戸5)</p> <p>開 業→昭和3年(1928)8月25日 廃線…平成16年4月1日(吉良吉田～碧南間16.4km)</p> <p>駅 名→「三河吉田駅」として開業 昭和18年2月1日に旧西尾鉄道の吉良吉田駅を0.2km南へ三河線の三河吉田駅を東に0.2km移設し両駅が統合 昭和35年11月1日「吉良吉田駅」に改称</p> <p>ホーム→西尾線2面2線(③④番線)と側線1線 旧三河線の①番線は留置線②番線は旧三河線の着発線 現在は蒲郡線の着発線に使用…平成20年6月29日から使用開始及び蒲郡方に側線1線</p> <p>その他→昭和28年9月25日 台風13号で吉良吉田～松木島間11月14日まで運転休止 貨物営業廃止…昭和44年7月6日(三河線松木島方の側線2線行止り線…撤去) 昭和59年5月 漏電で乗務員合宿所及び駅舎の一部焼失 同年9月1日改築 西尾線トランプス導入で蒲郡線との直通運転廃止…平成20年6月29日</p>

(注) 昭和11年迄、三河鳥羽14号踏切付近に駅舎があったという説も？ 昭和9年に入社した人は、駅舎は入社したとき三河吉田1号～2号踏切間に駅舎、昭和18年2月駅舎が蒲郡方移転、駅舎跡に吉田保線区が入居したという。

松木島 (神 谷)	<p>所在地→西尾市一色町松木島中切223(旧・幡豆郡一色町大字松木島字中切223)</p> <p>開 業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>駅 名→三河鉄道3代目の社長「神谷傳兵衛」の姓を取って「神谷駅」として開業 2年後の春、2代目の神谷傳兵衛が駅舎新築(貴賓室付駅舎) 昭和24年12月1日「松木島駅」に改称</p> <p>その他→行違い設備廃止…昭和36年10月16日 行違い設備撤去…昭和41年2月4日 貨物営業廃止…昭和36年5月11日(側線1線行止り線…撤去) 無人化…昭和48年(月日不明) 駅舎撤去…昭和53年9月 名鉄最後の腕木式信号機撤去…昭和34年9月3日→色灯式に変更</p>
--------------	--

三河一色	<p>所在地→西尾市一色町前野東浦136(旧・幡豆郡一色町大字前野字東浦136)</p> <p>開 業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>駅 名→三河一色…戦前は旧仮名遣いで「みかはいっしき」と書き「みかわいっしき(45頁参照)」と読んだが戦後「いっしき」でなく「みかわいしき(呼称年月日不明)」に…何故変わったか不明</p> <p>その他→行違い設備廃止…昭和45年6月25日 行違い設備撤去…昭和59年3月20日 貨物営業廃止…昭和52年5月25日 左右側線各1線(山側の側線は引込み線・通称養鰻線)撤去 無人化…昭和59年4月1日(以後三河観光が業務委託…平成15年8月1日委託解除) 駅舎撤去…平成20年6月(平成16年4月1日から4年間ふれんどバスの車庫兼定期券発売) 社宅…昭和28年9月25日の13号台風まで使用 昭和33年3月5日駅舎改築</p>
------	--

(注) 昭和37年、幡豆養鰻と幡豆池中養殖が合併し西三河養殖漁業(現・一色うな漁業協同組合)が設立し養鰻線を敷設。

西 一 色 (味 浜)	<p>所在地→西尾市一色町赤羽東乾地104(旧・幡豆郡一色町大字赤羽字東乾地104)</p> <p>開 業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>駅 名→開業前は「八王子駅」で申請 開業時「味浜駅」に改称 昭和2年10月25日駅舎新築のとき「西一色駅」と再改称 読み方は「三河一色」と同じく「にしいっしき」であったが戦後「にしいしき」に…何故変わったか不明</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和10～13年頃(側線1線…撤去…貨物ホーム跡現存) 無人化…昭和46年2月1日 駅舎撤去…昭和61年(月日不明) 社宅…昭和40年代前半頃まで使用</p>
----------------	---

寺津	<p>所在地→西尾市寺津町観音東39の1</p> <p>開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>その他→行違い設備撤去…昭和42年頃</p> <p>貨物営業廃止…昭和40年1月1日(側線1線…撤去…貨物ホーム跡一部現存)</p> <p>無人化…昭和44年7月1日</p> <p>駅舎撤去…昭和45年頃 社宅…昭和30年代後半まで使用</p>
北寺津	<p>所在地→西尾市寺津町寺後</p> <p>開業→昭和2年(1927)7月25日 昭和19年休止 同44年4月5日廃止</p> <p>その他→貨物扱いなし ホーム跡現存(このホームを見れば三河鉄道の開業当時のホームが推測できる)</p>
三河楠	<p>所在地→西尾市楠村町北荒子11の1</p> <p>開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和31年1月5日 貨物営業の集約化で港前駅(平坂支線・昭和35年3月27日廃線)に集約…港前駅廃止後は貨物営業は三河平坂へ(側線2線…撤去…貨物ホーム跡現存)</p> <p>無人化…昭和33年2月23日 駅舎撤去…昭和33年頃</p>
三河平坂	<p>所在地→西尾市平坂町梨子山1の2</p> <p>開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>その他→駅舎改築…昭和36年9月27日 駅舎撤去…平成18年6月か7月(期日不明)</p> <p>貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線1線…撤去)</p> <p>無人化…昭和60年10月1日 但し 初列車～9時30分まで運転取扱要因配置 朝のラッシュ帯は碧南～三河平坂と三河平坂～吉良吉田間の閉塞を分割して運転 9時30分以後は碧南～吉良吉田間を併合し1閉塞区間として運転</p> <p>平坂支線平坂口駅の乗換駅…約400mを徒歩連絡(平坂支線…昭和35年3月27日廃線)</p>
中畑	<p>所在地→西尾市平坂町古新田160</p> <p>開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和34年1月21日(側線1線と貨物ホーム)=OTICSの駐車場建設のためホーム(含む、貨物ホーム)も撤去し消滅…平成17年7月27日現地確認</p> <p>昭和34年9月26日 伊勢湾台風により奥田新田が決壊で満潮時は中畑構内冠水…碧南以遠運休→一部の列車は三河平坂と三河旭で折返し運転(約40日間続く)</p> <p>無人化…昭和41年(月日不明) 駅舎撤去…昭和41年以降 社宅…昭和34年9月まで使用</p>
三河旭	<p>所在地→碧南市平七町5丁目51</p> <p>開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日</p> <p>その他→行違い設備撤去…昭和41年頃</p> <p>貨物営業廃止…昭和40年1月1日(側線1線…撤去 貨物ホーム跡現存)</p> <p>駅舎改築…昭和35年(月日不明) 駅舎撤去…昭和44年以降</p> <p>無人化…昭和43年12月20日</p> <p>社宅…昭和34年(駅舎改築前)まで使用</p>

棚尾	所在地→碧南市棚尾本町5丁目74 開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日 その他→貨物営業廃止…昭和40年1月1日(駅舎側に島ホーム式側線1線…撤去) 無人化…昭和41年(月日不明) 駅舎改築…昭和35年(月日不明) 駅舎撤去…昭和41～42年頃
----	--

玉津浦	所在地→碧南市塩浜町3丁目137 開業→大正15年(1926)9月1日 廃止…平成16年(2004)4月1日 その他→貨物線(専用線)及び場内信号機撤去(タブレット閉塞機撤去)…昭和34年12月3日 貨物営業廃止…昭和36年5月11日(島式側線2線及び貨物ホーム…撤去) 無人化…昭和41年(月日不明) 駅舎撤去…昭和42年頃
-----	---

碧南 (大浜港)	所在地→碧南市中町5丁目48 開業→大正3年(1914)2月5日 駅名→「大浜港駅」として開業 昭和23年4月5日に大浜町・棚尾町・新川町・旭村が合併し碧南市が誕生…同29年4月1日「碧南駅」に改称 大浜口支線(貨物線)→大正4年11月29日開業 昭和21年8月1日廃線 ホーム→1面2線(貨物業務廃止前は2面2線)側線3線 現在は側線2線(海側の1線は撤去) その他→貨物営業廃止…昭和52年5月25日 同日…衣浦臨海鉄道碧南線が開通(碧南市～権現崎間…平成18年4月1日廃止) 昭和22年6月…駅舎改築(東南海地震…昭和19年12月7日…駅舎倒壊) 碧南～吉良吉田間 レールバス化…平成2年7月1日…20形使用 平成7年3月1日…30形使用 同区間廃線…平成16年4月1日(廃止区間16.4km) 無人化…平成17年8月25日 駅集中管理システム導入で無人化 運転要員と運転指令室有 同年9月14日「トランパス」碧南～重原間同時導入
-------------	--

碧南中央 (新須磨)	所在地→碧南市栄町3丁目59 開業→大正4年(1915)7月10日 駅名→大正3年の夏は海水浴場利用者のために夏季期間中臨時停車 翌年4年7月10日から正式に「新須磨駅」として開業 昭和56年12月14日 0.2km知立方に移設し「碧南中央駅」に改称 ホーム→1面1線(旧新須磨駅も1面1線)…貨物扱いなし その他→終日有人駅…碧南中央駅移設時は特勤駅(平成17年9月14日から終日有人駅)
---------------	---

新川町	所在地→碧南市新川町3丁目113 開業→大正3年(1914)2月5日 ホーム→2面2線 新川口支線(貨物線)→大正4年8月17日開業 昭和30年2月1日廃止 同日から新川町駅の構内側線となる(貨物専用線=通称… <sup>ぐちせん</sup> 口線とか臨港線と呼称) その他→貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線が上りホーム方に1線(行止り線)と貨物ホーム及び旧新川口に側線4線…共に撤去…撤去年月日不明) 駅舎改築…昭和19年7月 特勤化…昭和60年2月 無人化駅…平成4年8月1日
-----	---

北新川	<p>所在地→碧南市久杵町4丁目19</p> <p>開業→大正3年(1914)2月5日 ホーム→1面2線</p> <p>その他→昭和22年6月 駅舎新築(駅舎のみ知立方に移設)…期日不明 社宅…昭和35年頃まで使用          貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線左右各1線と海側の上屋付貨物ホーム…共に撤去)          無人化…平成17年(2005)8月25日 駅集中管理システム導入で無人化</p>
高浜港	<p>所在地→高浜市青木町6丁目3の1</p> <p>開業→大正3年(1914)2月5日</p> <p>ホーム→1面1線(貨物営業廃止前は1面2線 行違い設備撤去…昭和58年10月21日)</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線3線と海側貨物ホームは撤去、山側ホーム原形跡有)          特勤化…昭和60年2月 無人化…平成17年8月25日 駅集中管理システム導入で無人化</p>
三河高浜	<p>所在地→高浜市春日町5丁目3の1</p> <p>開業→大正7年(1918)4月20日 ホーム→1面2線</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線左右に各1線と海側貨物ホーム…共に撤去)          駅舎改築…昭和32年8月 橋上駅化…平成6年12月25日          無人化…平成17年8月9日 駅集中管理システム導入で無人化          社宅…昭和32年代前半まで使用          明治村線…尾三鉄道の免許線(三河高浜～米津)を譲受したが利害関係が絡み「幻線」に</p>
吉浜	<p>所在地→高浜市屋敷町1丁目2の30</p> <p>開業→大正3年(1914)2月5日</p> <p>ホーム→1面1線(行違い設備撤去前は1面2線及び山側の側線1線と貨物ホーム…撤去)</p> <p>その他→駅舎…昭和34年9月26日の伊勢湾台風で被災 同35年3月駅舎改築 平成17年9月14日          …駅集中管理システム導入のため再改築          行違い設備撤去…昭和58年10月21日 側線撤去…昭和53年3月20日          貨物営業廃止…昭和52年5月25日 特勤化…昭和60年4月          無人化…平成17年9月14日 駅集中管理システム導入で無人化</p>
小垣江	<p>所在地→刈谷市小垣江町下半ノ木20の3</p> <p>開業→大正3年(1914)2月5日</p> <p>専用線→昭和2年5月19日 大林組…依佐美送信所建設のため2.5kmの臨時専用線完成          昭和2年7月11日建材輸送開始(鉄塔8基…高さ250m) 昭和2年9月30日(12月説も)          専用線敷設免許期間満了で撤去…以後コロを使用人力で資材運搬 鉄塔解体…平成9年3月</p> <p>ホーム→1面2線(貨物営業廃止前は側線左右に各1線と海側貨物ホーム…共に撤去)</p> <p>その他→前川改修工事に伴う構内配線変更…平成14年7月6日          駅舎…平成17年9月14日 ホーム吉浜方先端へ新築移設(旧駅舎に三鉄マークの鬼瓦9個中          名鉄資料館とかわら美術館に各1個 あと7個は何処に? 内盗難されたのは何個?)          貨物営業廃止…昭和52年5月25日(側線左右に各1線、山側の側線は行止り線)          特勤化…昭和60年2月 平成17年9月14日…駅舎新築し駅集中管理システム導入で無人化          社宅…昭和40年前半頃まで使用</p>

刈谷市 (刈谷町)	所在地→刈谷市広小路3丁目504の1 開業→大正3年(1914)2月5日 駅名→「刈谷町駅」として開業 昭和25年4月1日市制施行 昭和27年3月1日「刈谷市駅」に改称 昭和6年駅舎改築 刈谷市付近2.3km高架化で刈谷市～刈谷間複線化…昭和55年12月14日 ホーム→1面2線(高架前は2面3線…側線1線は貨物線で行止り線) その他→貨物営業廃止…昭和40年1月1日 無人化…平成17年8月11日 駅集中管理システム導入で無人化
--------------	---

刈谷 (刈谷新)	所在地→刈谷市東日成17の4 開業→大正3年(1914)2月5日 駅名→「刈谷新駅」として開業 昭和2年11月10日「刈谷新駅」を0.1km知立方にある国鉄(現・JR)「刈谷駅」に移設し共同使用駅 南口駅開設…昭和56年9月1日 63年4月23日橋上駅化 平成元年1月25日 総合改良工事完成(南北連絡通路完成) 名鉄とJRが分割駅 ホーム→1面2線(以前:両側に側線各1線と南側に刈谷乗務区・線路係員の管理区など…撤去跡に名鉄協商の立体駐車場とホテル(名鉄イン刈谷)を建設 その他→平成20年12月1日…ペDESTリアンデッキ「みなくる刈谷ウイングデッキ」が完成 南北自由通路と接続し使用開始
-------------	--

重原	所在地→知立市上重原町本郷4の4 開業→大正12年(1923)4月6日 ホーム→2面2線(旅客扱いのみで、貨物扱いなし) 複線化→重原～知立間2.1km…昭和51年4月11日 その他→無人化…昭和54年12月11日 駅舎新築…平成17年9月14日(上下ホームの各知立方)
----	---

知立	所在地→知立市栄2丁目60 開業→昭和34年(1959)4月1日(新知立駅が新設され三河線は当駅でスイッチバック キロ程が0.7km増加 64.1kmから64.8kmに) ホーム→3面5線(側線1線…側線が①番線のため、ホーム表示は②③④⑤⑥番線) その他→貨物列車…重原～三河知立間直通運転…貨物列車専用線廃線(昭和59年1月1日) 刈谷乗務区も知立へ移設し「知立乗務区」となる…昭和34年4月1日
----	--

三河知立 (知立)	所在地→知立市内幸町加藤20 開業→大正4年(1915)10月28日 駅名→「知立駅」として開業 昭和16年6月1日 名古屋鉄道と合併 旧・豊橋線=現・名古屋本線(旧・愛知電気鉄道)の「新知立駅(大正12年6月1日開業)」と統合(昭和16年8月1日)して「知立駅」に 昭和34年4月1日 知立駅移設に伴い三河線の旧駅を「三河知立駅」と改称し名古屋本線の旧駅を「東知立駅(昭和43年1月7日廃止)」と改称して分離(階段連絡通路を撤去) ホーム→1面2線…(知立駅当時は2面3線と側線2線…側線2線と旧上り線のホーム現存)
--------------	--

	<p>その他→貨物営業廃止…昭和 40 年 9 月 1 日</p> <p>知立連絡線…「知立(現・三河知立)～知立信号所間」0.8km の用地を買収 昭和 3 年 6 月 1 日 開通 愛知電気鉄道と貨物列車の相互乗入れを開始</p> <p>昭和 25 年 9 月 17 日から朝夕のラッシュ帯名古屋本線との直通列車を新設し信号所経由で運転 昭和 59 年 4 月 1 日廃線…線路跡一部現存</p> <p>ホーム延伸…平成 7 年 7 月 22 日 4 両ホーム化</p> <p>無人化…平成 13 年 6 月 16 日→無人化システム稼働 実際の無人化は昭和 59 年 4 月 1 日?</p> <p>トランパス導入…平成 15 年 10 月 1 日(知立～猿投間と豊田線同時導入)</p>
--	---

(注) 平成 13 年 5 月まで、三弘法のときや必要に応じ、知立駅から助役や駅員を派遣していた。

三河八橋	<p>所在地→豊田市花園町五反田 3 9</p> <p>開業→大正 9 年(1920) 7 月 5 日</p> <p>駅名→「三河八橋駅」と決定するまで紆余曲折有り「八橋」は知立町(現・知立市) 駅所在地は高岡町大字花園(現・豊田市花園町)、当初の計画では八橋地内(現・高架入口付近)であったが逢妻男川の出水が問題になり用地を物色し現在地に決定 また「花園駅」案が出て決定するかと思われたが山陰線に同名駅があり採用されず</p> <p>三河八橋付近 1.63km 高架化…平成 21 年 12 月 12 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線</p> <p>その他→駅舎改築…昭和 38 年 10 月 16 日(改築前まで社宅使用)</p> <p>駅舎移転…平成 19 年 10 月 13 日 仮線切替えに伴う移転</p> <p>貨物営業廃止…昭和 36 年 5 月 11 日(側線 1 線…撤去)</p> <p>無人化…平成 13 年 6 月 16 日 無人化システム稼働</p>
------	--

若林	<p>所在地→豊田市若林東町沖田 3 7</p> <p>開業→大正 9 年(1920) 7 月 5 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線</p> <p>その他→駅舎改築…昭和 37 年 9 月(改築前まで社宅使用)</p> <p>貨物営業廃止…昭和 40 年 1 月 1 日(側線 1 線…撤去)</p> <p>特勤化…平成 13 年 6 月 30 日 7:00～19:00 無人化システム稼働</p> <p>平成 15 年 10 月 1 日 7:00～11:00</p>
----	--

竹村	<p>所在地→豊田市竹町宮下 1 6</p> <p>開業→大正 9 年(1920) 7 月 5 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和 36 年 5 月 11 日(側線 1 線…撤去) 駅舎改築…昭和 38 年頃</p> <p>無人化…平成 13 年 6 月 30 日 無人化システム稼働</p>
----	--

土橋	<p>所在地→豊田市土橋町 8 丁目 1 4 5</p> <p>開業→大正 9 年(1920) 7 月 5 日</p> <p>ホーム→2 面 3 線の他…側線 4 線 内 1 線は行止り線(7 番線) 行止り線(7 番線)は平成 5 年 3 月延伸(平成 5 年 4 月 1 日 豊田線 6 両化のため…同駅は豊田線の車両留置基地)</p> <p>その他→駅舎改築…昭和 34 年の伊勢湾台風で被災し改築 平成 7 年 3 月 16 日再改築(乗務員合宿所付)</p>
----	--

	<p>新駅舎橋上駅化(南北自由通路)完成…平成 22 年 3 月 27 日</p> <p>トヨタ自工元町工場創業 1 年後の昭和 35 年 8 月…貨物専用線新設 昭和 49 年(月日不明)撤去 貨物営業廃止…昭和 59 年 1 月 1 日</p>
上 挙 母	<p>所在地→豊田市金谷町 2 丁目 9 6</p> <p>開 業→大正 9 年(1920) 8 月 31 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線(貨物営業中は 2 面 4 線…貨物営業廃止後は配線変更し 2 面 3 線・中線に挙母線着発線)</p> <p>その他→挙母線の分岐駅…昭和 48 年 3 月 4 日(上挙母～大樹寺間 11.0km)廃線 貨物営業廃止…昭和 36 年(月日不明) 配線変更とホーム拡張…昭和 38 年 8 月 1 日 昭和 40 年頃まで社宅使用 開業以来の駅舎は貴重な存在 無人化…平成 13 年 6 月 16 日 無人化システム稼働</p>
豊 田 市 ( 挙 母 )	<p>所在地→豊田市若宮町 1 丁目 3 5</p> <p>開 業→大正 9 年(1920) 11 月 1 日</p> <p>駅 名→「挙母駅」として開業 昭和 34 年 1 月 1 日 挙母市が豊田市と市名改称 同年 10 月 1 日… 「豊田市駅」に改称</p> <p>ホーム→2 面 3 線(地上・地下駅舎…1 面 2 線と側線 3 線・内 1 線は行止り線と貨物ホーム有)</p> <p>その他→挙母(豊田市)幹事駅となる(幹事駅制を新設…全線 19 幹事駅)…昭和 24 年 7 月 1 日 駅舎新築…昭和 36 年 7 月 24 日東西連絡地下道、地下駅舎を設置しトヨビル開業 昭和 45 年トヨビル増築(2F→4F…月日不明)</p> <p>新駅舎(高架)完成…昭和 60 年 11 月 1 日</p> <p>単線で高架化…昭和 60 年 12 月 1 日 上挙母～梅坪間 3.4km</p> <p>複線で高架化…昭和 61 年 10 月 1 日 豊田市～梅坪間 1.4km</p> <p>トヨタプラザ開業(豊田市駅高架下商店街)…昭和 62 年 3 月 21 日</p> <p>貨物営業廃止…昭和 35 年 12 月 1 日 駅前の「飛躍の女神」除幕式…昭和 35 年 7 月 7 日…(昭和 60 年 11 月 1 日…バスターミナル建設で移動)</p> <p>地下鉄 3 号線と犬山線の相互直通運転開始…平成 5 年 8 月 12 日</p> <p>駅リニューアル…平成 10 年 6 月 24 日…自動改札機・券売機増設</p> <p>トランパス・駅集中管理システム稼働開始…平成 15 年 10 月 1 日</p> <p>碧南～重原及び牛田～富士松間も豊田市幹事駅に編入…平成 17 年 7 月 1 日</p>
梅 坪	<p>所在地→豊田市梅坪町 7 丁目 1 2 5</p> <p>開 業→大正 12 年(1923)10 月 26 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線(地上駅…豊田線開業前…1 面 2 線と側線 1 線)</p> <p>梅坪付近 1.3km 高架完成 0.2km 豊田市方に移設…昭和 54 年 3 月 27 日</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和 52 年 12 月 25 日</p> <p>豊田線の起点駅(線路の起点は梅坪駅 運行系統上では豊田市駅)</p> <p>豊田新線開業…昭和 54 年 7 月 29 日 (梅坪～赤池 15.2km)</p> <p>路線名改称→「豊田新線」から「豊田線」に…昭和 61 年 9 月 29 日</p> <p>特勤化 7:00～19:00…平成 13 年 6 月 30 日(無人化システム稼働)</p> <p>無人化…平成 15 年 10 月 1 日 トランパスシステム導入</p>

越 戸	<p>所在地→豊田市越戸町梅盛 4</p> <p>開 業→大正 11 年(1922) 1 月 17 日→猿投延伸までの終着駅…国道 153 号線から駅までの道路拡幅</p> <p>ホーム→2 面 2 線(旧・地上駅…貨物営業中は 1 面 2 線と貨物ホームと行止り線及び海側にも側線 1 線)</p> <p>その他→貨物営業廃止…昭和 59 年 1 月 1 日 昭和 30 年代まで社宅使用</p> <p style="padding-left: 2em;">無人化…昭和 45 年 8 月 16 日</p> <p style="padding-left: 2em;">行違い設備復活し配線変更及び梅坪～猿投間 CTC 使用開始…平成 2 年 10 月 4 日</p> <p style="padding-left: 2em;">越戸駅付近高架化…平成 11 年 7 月 3 日</p>
-----	---

※ 先代・神谷傳兵衛時代は終着駅…1 5 3 号線まで道路が広いのは貨物積荷の牛馬車が離合を容易するため拡幅

平 戸 橋	<p>所在地→豊田市平戸橋町石平 4 3</p> <p>開 業→大正 13 年(1924)10 月 31 日</p> <p>ホーム→1 面 1 線(戦前に側線 1 線有…猿投に向って現線路の左側に…海側)</p> <p>貨物営業廃止…昭和 18～19 年頃(側線は行止り線…撤去)</p> <p>その他→無人化…昭和 42 年 4 月 1 日</p>
-------	---

猿 投	<p>所在地→豊田市井上町 5 丁目 6 2</p> <p>開 業→大正 13 年(1924)10 月 31 日</p> <p>ホーム→1 面 2 線(側線…6 線内 1 線は行止り線 検査場線 3 線)</p> <p>その他→駅舎改築(乗務員合宿所付)…平成 5 年 9 月 1 日</p> <p style="padding-left: 2em;">貨物営業廃止…昭和 59 年 1 月 1 日 昭和 40 年頃まで社宅使用</p> <p style="padding-left: 2em;">検査場設置・配線変更…昭和 54 年 6 月 10 日 検査場留置線 6 両に拡幅…平成 5 年 3 月 31 日</p> <p style="padding-left: 2em;">猿投～西中金間レールバス化…昭和 60 年 3 月 14 日 廃線…平成 16 年 4 月 1 日</p> <p>井上徳三郎と猿投駅…名古屋市出身の実業家…慶應 3 年(1867)～昭和 11 年(1936)</p> <p style="padding-left: 2em;">明治 44 年(1911)猿投村の山林を購入 大正元年(1912)井上農場を設立</p> <p style="padding-left: 2em;">大正 13 年、三河鉄道(猿投駅)に土地 6,000 坪寄進</p> <p style="padding-left: 2em;">昭和 7 年 11 月駅舎を改築し寄付</p> <p style="padding-left: 2em;">以前、井上町は「猿投村大字四郷字東山」であったが、昭和 11 年に井上徳三郎の偉業を後世に伝えるため「大字四郷字東山を字井上」と改称したのが地名の由来</p>
-----	---

三 河 御 船	<p>所在地→豊田市御船町山屋敷 7 4 の 2</p> <p>開 業→昭和 2 年(1927) 8 月 26 日 廃止…平成 16 年 4 月 1 日</p> <p>その他→無人化…昭和 27 年 11 月 28 日</p> <p style="padding-left: 2em;">駅舎撤去…昭和 41 年頃</p> <p style="padding-left: 2em;">貨物営業廃止…昭和 18 年頃 (駅舎側に島ホーム式側線 1 線撤去後は 1 面 1 線)</p> <p style="padding-left: 2em;">※ 三河御船は「三河線」で駅員無配置化された最初の駅</p>
---------	--

枝 下	<p>所在地→豊田市枝下町的場 2 2 8</p> <p>開 業→昭和 2 年(1927) 8 月 26 日 廃止…平成 16 年 4 月 1 日</p> <p>その他→行違い設備撤去…昭和 42 年(月日不明) (撤去前は…1 面 2 線と貨物ホームの引込み線 1 線)</p> <p style="padding-left: 2em;">行違い設備撤去後は 1 面 1 線と引込み線 1 線…三星粘土→東芝炉材→東海セラミックス</p> <p style="padding-left: 2em;">貨物営業廃止…昭和 59 年 1 月 1 日(引込み線撤去…撤去後は 1 面 1 線)</p> <p style="padding-left: 2em;">無人化…昭和 42 年 8 月 22 日 駅舎撤去…昭和 42～43 年頃</p>
-----	--



三河広瀬	所在地→豊田市東広瀬町神田5の4 開業→昭和2年(1927)9月17日 廃止…平成16年4月1日 その他→1面1線(貨物営業中は1面2線…1線は貨物線で撤去→貨物ホーム跡現存) 貨物営業廃止…昭和59年1月1日 無人化…昭和59年1月16日 三河広瀬の駅舎・プラットホームが登録有形文化財に指定…平成19年10月2日
------	---

西中金	所在地→豊田市中金町前田765の3 開業→昭和3年(1928)1月22日 廃止…平成16年4月1日 その他→1面1線と行止り線(側線3線 うち側線2線は行止り線…知立方の側線→貨物ホーム撤去) 貨物営業廃止…昭和38年4月1日 乗務員の合宿所新設…昭和32年6月頃、廃止…昭和59年3月20日 無人化…昭和60年4月14日(5月1日という記述もあるが…) 西中金～追分間…用地を確保し路盤まで敷設したが、昭和33年6月27日に西中金～足助間、 鉄道起企業停止 西中金～追分(井ノ口)間の建設工事着手…昭和4年2月10日 西中金の駅舎・プラットホームが登録有形文化財に指定…平成19年10月2日
-----	---

- (注1) 幡豆3町(一色町・吉良町・幡豆町)西尾市と合併…平成23年4月1日( )内の住所は廃線前の住所  
 (注2) 2説以上のときは、当時の新聞記事・知立乗務区の発行資料を優先  
 (注3) 廃線区間のプラットホーム跡は、中畑以外 平成26年2月5日現在 現存しています。


三河鐵道運轉時刻表 大正參年參月壹日改正

表刻時轉運線道海東												表刻時轉運道鐵河三											
上						下						院線			上			下					
新橋	平沼	西谷	静岡	濱松	豊田	大塚	大塚	大塚	大塚	大塚	大塚	上	下	上	大塚	大塚	大塚	大塚	大塚	大塚			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
10:00	10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10	11:20	11:30	11:40	11:50	12:00	12:10	12:20	12:30	12:40	12:50	13:00	13:10	13:20	13:30	13:40	13:50



DVD持参者は裏面参照…開業当時の吉浜駅の時刻表(高浜市誌＝内藤七郎氏製作の写し)を見れば、汽車と混合列車が1本置きに運転されている。このことから、三河鐵道は地場産業の輸送手段として開業し発展した鐵道であった。その貨物営業取扱いを昭和59年から、自動車輸送に押され全廃したため衰退を早めたといっても過言ではない。



※ 刈谷新～大浜港間…開業時は1日10往復、大正15年の電化前は12往復。この間、何時2往復増発されたか不明。

三河線(含む、三河鉄道)の年表

年	月	日	三 河 線	岡崎市内線等
明治				
31(1898)	2	14		岡崎馬車鉄道設立 同年6月9日敷設認可取得 直ちに工事着手
	12	28		岡崎馬車鉄道 開通式
32	1	1		岡崎馬車鉄道 岡崎停車場～是字寺(明大寺)間 3.3km 営業運転開始
40	6	22		岡崎馬車鉄道 明大寺～康生町間開通
43	11	4	31名の発起人と知立町から大浜町の各町村代表が知立の平野屋で「碧海軽便鉄道」の創立を打合せ(事業免許を申請)	
44	7	18	碧海軽便鉄道が知立町～大浜町間軽便鉄道敷設免許取得	
	8			知立～挙母間の町村の有力者らが知挙軽便鉄道敷設免許取得
	10	2		岡崎馬車鉄道 岡崎電気軌道と改称
45	5	30	刈谷町の正覺寺で創立総会開催 碧海軽便鉄道を三河鉄道と改称 軌間 762mm を 1067mm に変更 社長・武山勘七就任 資本金 50 万円	
大正				
元(1912)	8	31		岡崎電気軌道 馬車鉄道の軌間拡幅(762mm を 1067mm)と電化(電圧 600V 岡崎停車場～康生町間)
	10	20	知挙軽便鉄道より知立町～挙母町間の鉄道敷設免許権を譲受	
2	1	25	刈谷町大生座で起工式(1月22日の説も?) 第1期・大浜～刈谷間 第2期・刈谷～知立間	
	5	30	社長・武山勘七が辞任 専務・三浦逸平が代表代行	
	6	29	社長・久保扶桑、専務・阪東宣雄が就任	
	7	1	大浜町～蒲郡町間鉄道敷設免許取得 ※ 大正7年9月25日工事施工が不許可に	
3	2	5	刈谷新～大浜港間 14.5km 蒸気鉄道開通 (刈谷新・刈谷町・小垣江・吉浜・高浜港・北新川・新川町・大浜港の8駅開業) 車両…気動車1両 蒸気機関車2両 客車8両 手荷物車2両 その他…客車4両 緩急客車2両 有蓋貨車10両 無蓋貨車5両を省線等から譲受や借り入れ	 三河鉄道の社紋

年	月	日	三 河 線	岡崎市内線等
大正				
3(1914)	9	4	挙母町～猿投村間に鉄道敷設免許認可	
	10	8	社長・久保扶桑死去(9月23日という説も) 専務・阪東宣雄が代表代行	
4	7	10	新須磨駅開業	
	8	17	新川町～新川口間 0.6km 開通(貨物線) 新川口駅開業	
	10	28	刈谷新～知立間 4.0km 開通(知立駅開業)	
	11	29	大浜港～大浜口間 0.4km 開通(貨物線) 大浜口駅開業	
5	4	5	役員全員辞任 社長・神谷傳兵衛が就任	
	11	27	臨時株主総会開催 知立～越戸間延長のため 75万円増資して資本金125万円に	
7	4	20	三河高浜駅開業	
8	11	9	猿投村～足助間鉄道敷設免許申請	
9	2	8	大浜町～蒲郡町間に鉄道敷設免許再申請	
	7	5	知立～土橋間 <b>10.4</b> km 開通(三河八橋・若 林・竹村・土橋の4駅開業)	
	8	31	土橋～上挙母 2.8km 開通 上挙母駅開業	
	11	1	上挙母～挙母間 <b>1.8</b> km 開通 挙母駅開業	
	12	2	大浜町～蒲郡町間に鉄道敷設免許認可	
10	11	2	猿投村～足助町間鉄道敷設免許認可	
11	1	17	挙母～越戸間 <b>3.4</b> km 開通 越戸駅開業	
	4	24	社長・神谷傳兵衛死去 専務・渡辺勝三郎が代表代行	
	12	29	電化工事等のため資本金400万円増資決議	
12	4	6	重原駅開業	
	9	<b>7</b>		岡崎電気軌道 康生町～井田間 2.5km 開通(本町・能見町・神明社・八幡社・ 伊賀町・井田＝岡崎井田…昭和17年 頃改称…の6駅)
	10	26	梅坪駅開業	
13	2	27	資本金を400万円増資して525万円に	
	10	31	越戸～猿投間 <b>2.2</b> km 開通(平戸橋・猿投の2駅開業)	
	12	<b>23</b>		岡崎電気鉄道 井田～門立間 6.5km 開 通 (大樹寺・百々・岩津・八ッ木・ 細川・門立の6駅開業) 軌道でなく 鉄道線として開業 通称＝郡部線と 呼称

年	月	日	三 河 線	岡崎市内線等
大正				
14(1925)	2	17	吉田町～蒲郡町間の起工式を大浜尋常小学校で挙	
	10	8	足助延長線起工式を猿投駅で挙	
15	2	5	大浜港～猿投間電化 電圧 1500V 刈谷・猿投に変電所を新設 スピードアップ 30km/h から 50km/h に 刈谷～大浜港間 10→20 往復・刈谷～猿投間 9→18 往復に増発	
	9	1	大浜港～神谷間 13.7km 開通(玉津浦・棚尾・三河旭・ 中畑・三河平坂・三河楠・寺津・味浜・三河一色・ 神谷の 10 駅開業) ※ 大浜 (新須磨昭和 22 年 3 月改称) 変電所新設	
	10	9		西三鉄道が挙母～八事間鉄道敷設免許 申請(後の豊田線)
	11	11	代表取締役・渡辺勝三郎辞任により、2 代目・神谷 傳兵衛が社長に就任 就任 2 年目の春(昭和 3 年) 貴賓室付の「神谷駅」新築	
昭和				
2(1927)	4	16	三河鉄道 岡崎電気軌道と合併	 岡崎電気軌道の社紋
	5	19	小垣江～依佐美村間 2.5km…大林組が受注 依佐美送信所建設資材輸送の臨時専用鉄道線の建 設完成	
	7	11	依佐美送信所建設資材輸送を開始	
	7	25	北寺津駅開業	
	8	26	猿投～枝下間 4.5km 開通(三河御船・枝下の 2 駅開 業)	
	9	11	新三河鉄道に経営参加 2 代目神谷傳兵衛が社長に 就任  新三河鉄道の社紋	新三河鉄道(西三鉄道改称)設立 同年 12 月挙母～八事間鉄道敷設免許 取得
	9	17	枝下～三河広瀬間 1.3km 開通(三河広瀬駅開業)	
	9	30	小垣江～依佐美専用線免許期間満了で廃線	←※平成 9 年 3 月 鉄塔解体完了
	10	25	味浜駅を「西一色駅」に改称	
	11	10	刈谷新駅 0.1km 知立方に移設 省線刈谷駅と共同使 用駅開始	(注) 省線(鉄道省)→国鉄(日本国有鉄 道)→J R
	12	27		三河鉄道 尾三鉄道免許線 高浜町(三 河高浜)～明治村(米津)間の鉄道敷設 免許権を譲受(利害関係で幻線となる)
3	1	22	三河広瀬～西中金間 2.8km 開通(西中金駅開業)	
	6	1	愛知電気鉄道との貨物列車相互乗入れ(知立連絡線) 知立～知立信号所 0.8km 開通	

年	月	日	三河線	岡崎(挙母)線・岡崎市内線等
昭和				
3(1928)	8	25	神谷～三河吉田間 2.9km 開通(三河吉田駅開業)	※
	9	27	西中金～足助間にバス開通	
4	2	10	西中金～井ノ口間 5.0km 建設工事着手	
	8	11	三河吉田～三河鳥羽間 3.2km 開通(宮崎口・三河鳥羽間の2駅開業)	
	12	18	岡崎線上挙母～三河岩脇間 6.4km 開通(鴛鴨・渡刈・上市場・三河岩脇の4駅開業) 及び郡部線三河岩脇～井田間も岡崎線に 岡崎線(郡部線)の三河岩脇～大樹寺間の電圧 600Vを1500Vに昇圧	大樹寺～井田間は600Vのまま 岡崎線を新設したため、郡部線の三河岩脇～門立間を門立支線にし 三河岩脇～井田間は岡崎線に改称
5	4	4		愛知電気鉄道との合併契約調印
	7	3		愛知電気鉄道と三河鉄道合併認可 続いて合併事務協議に入り疑義発生
6	6	24		愛知電気鉄道との合併解消
11	7	24	三河鳥羽～三河鹿島間 10.3km 開通(西幡豆・東幡豆・洲崎・西浦・形原・三河鹿島の6駅開業)	(注) 三河鳥羽～蒲郡間の動力はガソリンカー・一部は蒸気機関車(戦時中は代燃車)
	10	2	社長・2代目神谷傳兵衛死去	
	11	10	三河鹿島～蒲郡間 4.1km 開通(拾石・蒲郡の2駅開業) 蒲郡まで開通すると、上り列車と下り列車の呼び方を逆にした ※ 三河線が大正3年2月5日 大浜港～刈谷新間が開通したとき刈谷が東京方になるため刈谷に向かう列車を上り列車と呼称したが蒲郡が東京方に近いため上下列車を逆呼称に変更	
	12	21	会長に米山辰夫就任(昭和13年以降…社長職制に)	
12	3	9	竹谷駅開業(拾石～蒲郡間)	
	5	11	江畑駅開業(竹谷～蒲郡間)	
	10	22	新三河鉄道の挙母～八事間の鉄道敷設免許権を譲受	
	12	27		三河豊田駅開業
13	5	1		門立支線(三河岩脇～門立間1.5km)営業休止
14	10	3		門立支線廃止
16	1	11	鉄道省で三河鉄道の米山辰夫社長・名古屋鉄道の藍川清成社長が合併裁定案を受諾	
	2	24	臨時株主総会で名古屋鉄道との合併仮契約承認 三河鉄道10株に対し、名古屋鉄道9株の割合	
	6	1	名古屋鉄道と合併、名古屋鉄道の「三河線・岡崎線」となる 米山社長…名古屋鉄道の取締役に	 名古屋鉄道の社紋  平成6年6月から

年	月	日	三 河 線	岡崎(挙母)線・蒲郡線・岡崎市内線等
昭和				
16(1941)	8	1	三河線知立駅と豊橋線(現・名古屋本線)新知立駅を統合し「知立駅」に 両知立間は階段で通路を結ぶ (改札口は今まで通り豊橋線用と三河線用の2箇所)	
	9		合併したため旧三河鉄道の車両番号を変更整理	
17	10	11		12時間制の「時間表」から24時間制の「時刻表」を採用
18	2	1	三河吉田駅を蒲郡方へ0.2km移設 西尾線吉良吉田駅を三河吉田駅方に0.2km延伸 三河線と現・西尾線(吉田線→碧西線)が統合し「三河吉田駅」となる  三河吉田～三河鳥羽間1500Vを600Vに降圧、碧西線(現・西尾線)と三河線「今村～三河鳥羽」が直通運転	
	12	23	職制改正で乗務区制度導入「刈谷乗務区」が誕生 初代区長・野村福太郎(2代目・住田 3代目三輪)	
19	不	明	軍需工場へ輸送力増強のため、小さな駅は休止(江畑・竹谷・洲崎・宮崎口・北寺津)	岡崎線の休止駅…鴛鴦・八ッ木・百々 (休止月日不明…3月20日?)
	12	7		東南海地震で大浜港駅舎など被災
20	1	13		三河地震で三河吉田・三河平坂駅や三河鹿島付近の盛土崩壊)
	8	14	土橋～竹村間で1200列車 アメリカ空軍の戦闘機に銃撃される 死者・2名 重軽傷者・75名	
21	8	1	大浜口支線(大浜港～大浜口間=貨物線)0.4km 廃線	
	10	31	三河線三河鳥羽～東幡豆間3.8km電化(600V)	
22	3	1	大浜変電所を新須磨変電所に改称	
	4	23	三河線東幡豆～蒲郡間10.6km電化(600V) 形原変電所新設	蒲郡～今村(現・新安城)間直通運転
	6		大浜港・北新川(知立方に駅舎のみ移設) 両駅舎改築	
23	5	16	路線名を改称  三河線を2路線に分割  蒲郡～三河吉田間を「蒲郡線」に  三河吉田～西中金間を「三河線」に  岡崎線(上挙母～岡崎井田間)を「挙母線」に改称	豊橋・東西連絡・名岐線を一本化して 「名古屋本線」に改称 碧西線を「西尾線」に改称
24	7	1	碧南駅及び挙母駅が幹事駅に  碧南幹事駅管内(三河吉田～重原間) 挙母幹事駅管内(三河八橋～西中金間及び上挙母～大樹寺間)	全線で19幹事駅を新設
	12	1	神谷駅を「松木島駅」に改称	挙母線上市場駅を「細川駅」に改称
25	9	17	名古屋本線と三河線との直通特急を新設	

年	月	日	三河線	挙母線・蒲郡線・岡崎市内線等
昭和				
27(1952)	3	1	刈谷町駅を「刈谷市駅」に改称	
	10	1		休止中の洲崎駅を東幡豆駅方に 0.4km 移設して再開
28	1	1		休止中の竹谷駅と江畑駅を統合して「塩津駅開業」
	9	25	台風 13 号被害で、松木島～三河吉田間 11 月 14 日まで不通	
29	4	1	大浜港駅を「碧南駅」に改称	
	4	17		岡崎市内線岡崎殿橋～康生町間 0.3km 複線化
30	2	1	新川口支線（新川町～新川口間＝貨物線）0.6km 廃止 新川町駅構内の側線になる	
32	8		三河高浜駅改築	
	10	1	3700 系運転開始 2 編成 M M で登場 （木造車 1060,1070,1080 などを全鋼製車化）	
33	3	5	三河一色駅 駅舎改築	
	3	10		観光特急「いでゆ号」誕生
	6	27	西中金～足助間の鉄道起業廃止	
34	4	1	知立駅新設移転、従来の知立を「三河知立(三河線)」と「東知立(名古屋本線)」に分割し改称 三河線知立～三河知立・知立～重原間に自動閉塞式(単線)使用開始 刈谷乗務区を知立駅構内に移転 知立乗務区と改称 昼間帯に三河線と名古屋本線直通列車運転(碧南～栄生間)毎時 1 本	(5500 系 4 編成 16 両…我が国初の一般列車に冷房車、名本線に誕生)
	7	12	碧南～蒲郡間直通運転	蒲郡線 600V を 1500V に昇圧 三河線と蒲郡線が直通運転
	9	3	松木島駅腕木式信号機を色灯式に変更 名鉄から腕木式信号機消える	
	9	26	伊勢湾台風で被災(碧南以遠は約 40 日運休) 一部列車は三河平坂と三河旭で折返し運転	※満潮時…中畑構内冠水で運転不能
	10	1	挙母駅を「豊田市駅」に改称	三河豊田駅を「トヨタ自動車前」に改称
	12	3	玉津浦駅場内信号機及び貨物専用線撤去 タブレット閉塞機撤去	
35	3	27	碧南～蒲郡間直通運転解除	西尾線 600V を 1500V に昇圧し蒲郡線と直通運転再開 平坂支線廃止
	10	2		休日ダイヤ新設 いでゆ号が「三ヶ根号」に名称変更
	11	1	三河吉田駅を「吉良吉田駅」に改称	

年	月	日	三河線	挙母線・蒲郡線・岡崎市内線等
昭和				
36(1961)	4	10		蒲郡線吉良吉田～西幡豆間に自動閉塞式使用開始
	7	20		蒲郡線西幡豆～蒲郡間に自動閉塞式使用開始
	7	24	豊田市駅地下駅舎として東西連絡地下道を新設	トヨビル開業
37	4	1		吉良吉田～蒲郡間 CTC 使用開始
	5	18		西尾・蒲郡線 CTC に自動制御設備併設
	6	11		岡崎殿橋駅貨物営業廃止
	6	17		福岡・岡崎市内線福岡町～大樹寺間 8.8 km 廃止 バス化 岡崎乗務区廃止
38	8	1	上挙母駅配線変更 中央に挙母線着発線	
39	2	16		運転職場に「主席助役・主任」制度導入
	3	16		電車乗務員週休 2 日制実施
	9	14	三河線 碧南～新一宮間に快速特急運転開始 ただし、三河線内は各駅停車 名本線直通列車に 5000 系使用	三ヶ根号が「三河湾号」に名称変更 5500 系(冷房車)を使用し毎日運転
40	11	16	知立乗務区・西尾乗務区を統合	
	12	27	知立乗務区が今村(新安城)～知立間乗務担当	
	12	30		名鉄式 ATS 鳴海～須ヶ口間使用開始
41	2	12		挙母線岩津駅 行違い設備撤去
	3	25	三河線・挙母線内に特急運転開始 快速特急と呼称し大きい特別な種別板取付 玉津浦中間帯一部普通列車通過	塩津・三河鹿島、普通列車一部通過 ※刈谷指令は名古屋指令へ統合
	7	12		3748・2748 号車に新塗色ライトパープル
	12	25	ダイヤ改正で三河線・挙母線に 3780 系冷暖房車登場	名古屋本線 8 両編成運転開始
42	1	1		初めての初詣座席確保列車運転 100 円
	4	10		西尾・蒲郡線に 7000 系運転開始
	7	13		車両の塗色ライトパープルをストロークリームとスカーレット帯に変更 (7000 系以外は逐次塗色)
43	5	7		蒲郡線 三河鹿島駅付近線形改良
	7	16	知立乗務区・豊田市合宿所にクーラー設置	運転支配人室新設
	7	31		名鉄 ATS 全線に完備(岐阜地区除く)
	10	1		塩津駅と拾石駅を統合し「蒲郡競艇場前駅」開業
44	3	21		西尾・蒲郡線に座席指定特急「三河湾号」運転(休日のみ)



年	月	日	三河線	挙母線・蒲郡線等
昭和				
44(1969)	4	5	北寺津駅廃止	
45	5	1	知立乗務区・知立～神宮前間乗務担当	今村駅を「新安城駅」に改称
	8	17		西尾・蒲郡線に座席特急毎日運転
46	1	24		形原～三河鹿島間 0.6km 高架化
	6	13		座席指定料金 100 円→150 円
	12	27	ダイヤ改正 三河線に 7300 系使用	
47	4	1		蒲郡駅付近 0.5km 高架化…高架駅に
	7	13	三河山間部に集中豪雨 猿投～西中金間が 8 月 10 日まで不通	挙母線・トヨタ自動車前～大樹寺間が 8 月 9 日まで不通
	10	30		名古屋交通局と豊田新線及び犬山線と の相互直通運転に関する基本協定締 結
48	3	4		挙母線廃線(上挙母～大樹寺間 11.0km)
	6	1		車内禁煙実施 (特急列車 9 月 19 日から実施)
49	10	10		洲崎駅を 0.4km 蒲郡方に移設
50	4	1	三河知立～豊田市間 CTC 使用開始	
51	4	11	知立～重原間 2.1km 複線化	
	10	10		洲崎駅を「こどもの国駅」と改称し新駅 舎使用開始
52	1	4		座席料金 150 円→200 円
	3	20		座席指定特急を「特急」 座席指定しな い特急を「高速」と呼称
	5	25	三河線海線の 9 駅の貨物営業廃止 三河一色・三河平坂・碧南・新川町・北新川・高 浜港・三河高浜・吉浜・小垣江	衣浦臨海鉄道 碧南線東浦～権現崎間 開通
	6	10	三河一色～刈谷間、貨物列車廃止	
	11	24		豊田新線福谷トンネル貫通
53	3	20	吉浜・小垣江駅など 7 駅の貨物用側線撤去	
54	1	1	豊田線用 100 系新造車両 三河線(知立～猿投間)で 営業運転開始	
	3	27	三河線梅坪駅付近 1.3km 高架化工事完成 梅坪駅を豊田市駅方へ 0.2km 移設高架化	
	6	7		黒笹変電所新設
	6	10	猿投駅構内配線変更及び検査場新設(刈谷工場閉鎖) 猿投変電所改良(4,000kw)	豊田新線試運転開始(805 号車使用)
	6	12		豊田新線の習熟運転 6 月 12 日から 7 月 25 日まで
	7	6	土橋変電所新設	

年	月	日	三 河 線	蒲郡線・豊田線等
昭和				
54(1979)	7	29	ダイヤ改正 山線…急行(知立～豊田市間)廃止	豊田新線(梅坪～赤池間)15.2km 開通(上 豊田・浄水・三好ヶ丘・黒笹・米野木・ 日進の 6 駅開業) 地下鉄 3 号線と相 互直通運転開始
	7	29		
55	3	1		FB 作戦始まる
	5	1		座席指定料金 200 円→250 円
	12	14	刈谷市駅付近 2.3km 高架化 刈谷市高架駅完成(刈 谷市～刈谷間複線化)	
	12	19	重原～小垣江間 自動閉塞式使用開始	
56	9	1	刈谷駅南口の駅業務…名鉄扱いとなる	
	11	20	ダイヤ改正 海線…急行廃止(知立～碧南間) 碧南～吉良吉田間・単車運転開始(昼間帯)	豊田新線の運転間隔 21 分を 20 分に
	12	14	新須磨駅を知立方に 0.2km 移設し「碧南中央駅」に 改称	
57	9	5	上挙母～梅坪間仮線使用開始	
58	4	6		鞍ヶ池公園に 805=2313 号車を展示
	10	21	小垣江～碧南間 自動閉塞式使用開始 刈谷市～碧南間 C T C 使用開始 吉浜・高浜港駅の行違い設備撤去	
59	1	1	土橋・越戸・猿投・枝下・三河広瀬駅貨物営業廃止 (三河広瀬→1 月 16 日…無人化)	
	3	16	北新川変電所新設(新須磨・刈谷変電所廃止)	名鉄時刻表発売
	3	20	猿投・西中金間スタッフ閉塞式に変更 西中金の乗務員合宿所廃止	黒笹駅有人化(特殊勤務)
	4	1	知立連絡線 三河知立～知立信号所間廃止	
	9	1	吉良吉田駅舎改築完成	
	12	15		8800 系 パノラマ DX 運転開始 座席指定料金 500 円…A 料金 従来の特急料金 250 円…B 料金
60	3	14	猿投～西中金間 レールバス導入=LE-car(ワンマ ン運転) LE10 形 3 両使用	
	4	14	西中金駅無人化(5/1 という記述もあるが…)	←(注)知乗の記録が正しいと思う。
	9	15	碧南～吉良吉田間のタブレット閉塞式を票券閉塞式 に変更	
	10	1	碧南～吉良吉田間 閉塞区間の併合分割扱い実施 碧南に通票鎖錠器を設置	
	10	9		座席指定料金 250 円→300 円
	11	1	豊田市駅新駅舎(高架)及び駅前バスターミナル完成	
	12	1	上挙母～梅坪間 3.4km 単線高架化	

年	月	日	三 河 線	蒲郡線・豊田線等
昭和				
61	6	1		首席助役を「副区長・副幹事駅長」
	9	29		豊田新線を「豊田線」に路線名改称
	10	1	豊田市～梅坪間 1.4km 複線高架化	
62	2	12		豊田線朝間ラッシュ帯 12 分間隔
63	1	29	刈谷駅ホーム 0.1km 知立方に移設	
	4	23	刈谷駅橋上駅化	
	7	8		パノラマ SUPER(1000 系)登場
	9	1	豊田市駅と愛知環状線新豊田駅を結ぶ「ペDESTリアンデッキ」完成	形原駅 新駅舎完成
	9	17		蒲郡競艇場前 0.1km 吉良吉田方に移設
平成				
元(1989)	1	25	刈谷駅総合改良工事完成 南北連絡通路完成、名鉄・JR 駅が独立	
	4	1		消費税導入で運賃・料金改定 特急 A…520 円 B…310 円
2	7	1	碧南～吉良吉田間 レールバス＝LE-car(ワンマン運転) LE20 形	営業支配人制度廃止、営業局を設置、運転支配人も運転管理局に改称
	10	4	越戸駅配線変更と梅坪～猿投間 CTC 使用開始	
4	11	24		座席指定料金の一本化(デラックス料金を廃止)310 円に統一
5	2	15		市交通 3 号線車両 3050 系輸送、平成 6 年 2 月 9 日まで延べ 20 回実施(大江～名本線～三河線～豊田線～赤池)
	4	1		豊田線 6 両運転開始
	6	1		局制度を廃止し、支配人制度復活
	8	11	車内発行機の導入	
	8	12	知立～碧南間 昼間帯 20 分間隔を 15 分間隔に増発	豊田線～地下鉄 3 号線～犬山線相互直通運転開始 豊田線車両で自動放送使用開始
	9	1	猿投新駅舎完成(乗務員合宿所も)10 月 13 日 竣工式	
6	4	16		三好ヶ丘駅リフレッシュで有人化 竣工式…4 月 19 日
	10	22	梅坪～平戸橋間高架工事用仮線使用	
	12	16		日進で重大事故発生(4 名死亡)
	12	25	三河高浜駅 橋上駅化	
7	2	22	三河知立ホーム 4 両化完成	
	3	1	LE30 形運転開始 10 形廃車	
	3	15	土橋駅新駅舎完成(乗務員合宿所も)3 月 25 日竣工式	
	11	14	知乗・西乗合併 30 年記念パーティー 107 名参加	←(名鉄岡崎ホテル 11F 葵の間)

年	月	日	三河線	蒲郡線・豊田線等
平成				
8(1996)	3	1		上豊田駅有人化(特勤)
	4	8	知立～猿投間 20 分間隔を 15 分間隔に増発 HL 車両三河線から姿消す(瀬戸線で最後を迎える …5月30日で3700系全廃)	豊田線 1 時間 4 本運転
	9	14	梅坪～越戸間高架工事 第 2 次切換え	
9	4	5		土休日ダイヤ実施
	6	1		運転支配人室廃止
10	4	13	知立駅改築工事完成 乗務区 2 F に移転	
	4	24	寺津～三河楠間 0.5km 高架化完成し使用開始	
	6	1		西尾～蒲郡間昼間帯ワンマン運転
	9	1		三好ヶ丘駅勤務見直しで、終日勤務
11	5	10		特別車両料金設定(座席指定料金廃止) 「特別車両券」に愛称名「μチケット」
	6	30	豪雨により御船川橋梁付近などで路盤流失、猿投～ 西中金間不通 8月13日運転再開	
	7	3	越戸駅付近 1.3km 高架化完成 越戸高架駅	
12	6	1		勤務制度の変更 (5 勤務 2 休日・5 勤務 3 休日制)
	11	11		蒲郡～蒲郡競艇場前間 高架化及び蒲 郡駅新築移転
13	5	26	越戸・平戸橋駅無人化システム稼働	
	6	16	三河知立・三河八橋・上挙母駅無人化システム稼働 …無人駅化	
	6	30	若林・竹村・梅坪駅無人化システム稼働 竹村駅無人化、若林・梅坪駅…特勤化	
	10	1	知立～猿投間 ワンマン運転開始(ホームセンサ方 式)	
14	7	6	小垣江駅配線変更(前川改修工事に伴う)	
	10	1	新車内発行機(紙巻の磁気券化)導入	
15	8	30		豊田線 米野木・黒笹駅に駅集中管理シ ステム導入
	9	13		豊田線 三好ヶ丘・浄水・上豊田駅に集 中管理システム導入
	10	1	三河線知立～猿投間各駅に駅集中管理システムとト ランパスシステム導入 無人駅…梅坪 特勤駅…若林(7:00～11:00)	豊田線も左と同じ 無人駅…米野木・黒笹・上豊田 特勤駅…三好ヶ丘(7:00～19:00)
16	4	1	碧南～吉良吉田間(16.4km)及び猿投～西中金間 (8.6km)廃線 (海)…「ふれんどバス」発車式→3月27日…吉良	

年	月	日	三 河 線	蒲郡線・豊田線等
平成				
16(2004)	4	1	吉田駅前 運行開始は4月1日 (山)…四郷駅～足助百年草間「おいでんバス」	
17	9	14	重原駅～碧南間「駅集中管理システムとトランパスシステム導入」	
18	4	29	知立～碧南間 ワンマン運転開始(車載モニター方式)	
19	10	2	旧・三河広瀬&西中金の駅舎とホーム登録有形文化財に	
	10	13	三河八橋駅付近仮線切換えに伴う移転	
20	6	29		ダイヤ改正 西尾～蒲郡間のワンマン区間を吉良吉田～蒲郡間に変更 吉良吉田駅の蒲郡線着発線は旧三河線の2番線使用
	7	13	1600系「さようなら列車」豊田市～知立間で実施	
	8	9		7000系ネームトレイン復活運転で吉良吉田まで快速急行「三河湾号」
	11	24		7000系「三河湾号」復活運転 団7012列車(桜井～蒲郡)
	12	26		7000系定期運行最終日
	12	27		ダイヤ改正 列車種別の呼称変更 快速特急と特急 快速急行と急行
21	2	6		浄水駅終日勤務＝リニューアル完成
	8	8		ありがとう パノラマカー 第6弾 イベント「パノラマ三河湾 DAY」で 西尾・蒲郡線に入線(8・9日の両日)
	8	30		「ラストパノラマカー」豊明～伊奈～本宿→舞木検査場
	11	27	7100系三河線で引退	
		29		7100系「さようなら運転」 豊明～伊奈～本宿→舞木検査場
	12	12	三河八橋付近高架化(1.6km) 三河八橋高架駅	
22	2	26	7700系三河線で引退	
	3	21		7700系「さようなら運転」 豊明～伊奈～本宿→舞木検査場
	3	27	土橋駅 橋上駅化	
23	2	11		manaca 使用開始
	3	23	知立駅バリアフリー(エレベータ)完成	
26	2	5	三河線誕生百年記念パーティー…名鉄トヨタホテル	←(107名参加)
35(2023)			知立高架工事完成予定(2F・3F共…2面4線)	

(注) **ゴシック体**は当時の新聞・郷土史等の月日及びキロ程で「名古屋鉄道百年史」と異なる。

# 三河鉄道唱歌

三鉄稲荷や岩津天神での無事故祈願祭、また、忘年会・新年会の宴等で歌われたと伝え聞く。  
 (節は…「勇敢なる水兵」…作詞・佐佐木信綱 作曲・奥好義→明治 28 年)

往きかう人の影しげく ツクミの郡を追分や  
 加茂の川瀬のせせらぎに 香高きヤナの鮎

平戸の橋に夕されば 貯水うかぶ舟小舟  
 矢作を下る涼風に 夏の鵜飼やいかならん

左手は上郷渡刈駅 岩脇すぎて岡崎の  
 鉄路に入りて岩津山 天満宮もつかの間ぞ

駅路の路も見へわずか 駒の鈴音聞へねど  
 知立の里のにぎわいは 横に愛電縦三河

雲井に高さ無線塔 是れこそまこと世界一  
 帆かげ間近の小垣江 おどる養魚の心よさ

伊勢よりよする黒潮を 真にうくる宮崎や  
 岩根にあそぶ黒鯛の 味もうれしき夏の海

日もいつしかと西浦の そなれの松に<sup>いりあい</sup>入相や  
 鐘もきこゆる形原 塩津の山はかすみつつ

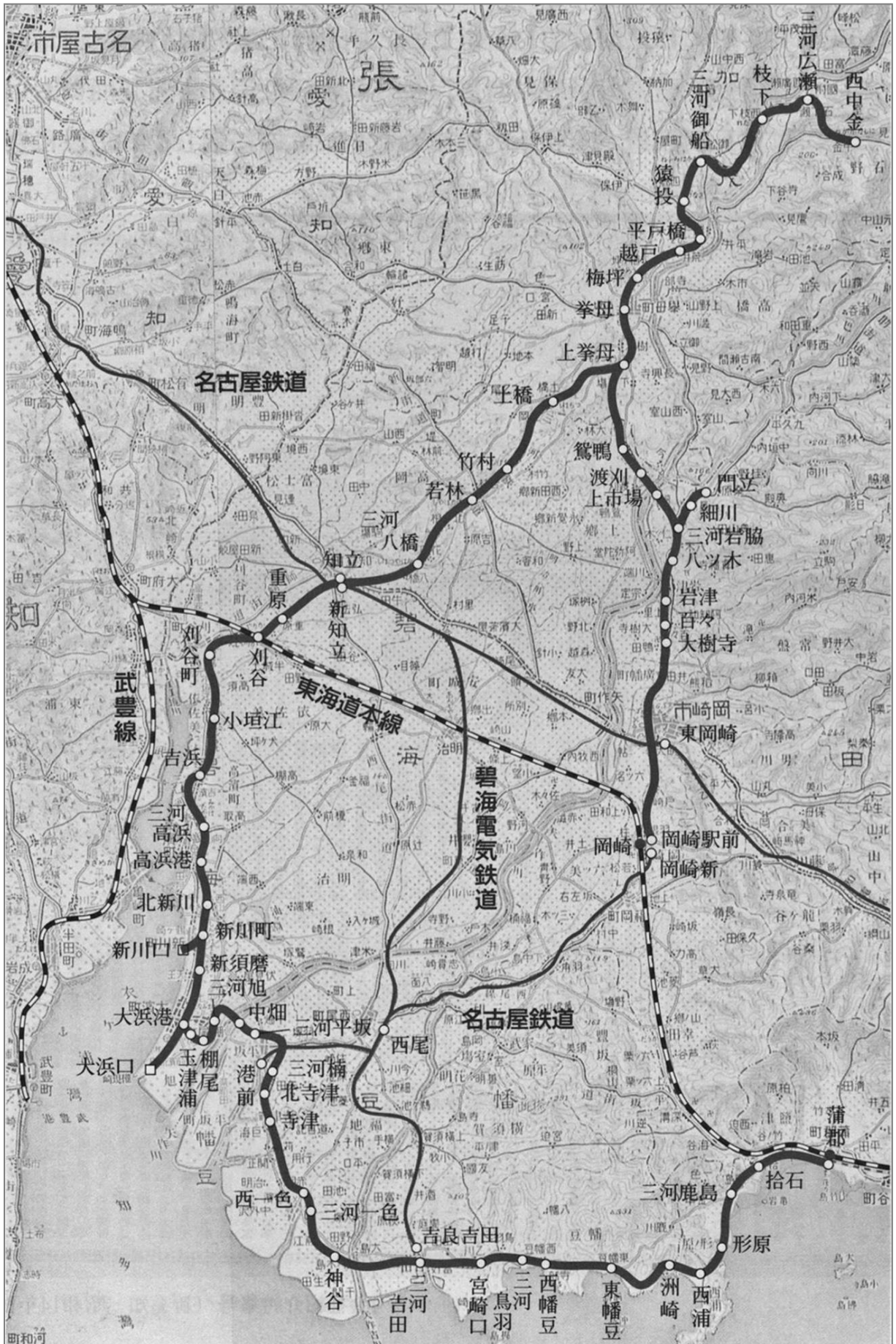
(注) 通称、三鉄稲荷は旧刈谷工場の東側にあつて、稲荷前の広場で、昭和 33 年ごろまで、班別のソフトボール大会を行っていた。100 年を機に付近を見聞したが分からなかった。  
 無事故祈願祭は、社内全体では岩津天神、部署別では岩津天神や三鉄稲荷を守護神として行っていたと聞く。

## 三河線(ワンマン車)専用車両(平成 25 年 12 月 31 日現在)

6001-6301-6101-6201	6002-6301-6102-6201		
6003-6303-6103-6203	6004-6304-6104-6204		
6005-6305-6105-6205	6015-6315-6115-6215		
6016-6316-6116-6216	6017-6317-6117-6217		
6014-6214	6020-6220	6021-6221	6034-6234
6037-6237	6038-6238	6039-6239	6040-6240
6041-6241	6042-6242	6043-6243	6044-6244
4両×8本=32両	2両×12本=24両		



三河鉄道の路線(昭和11年11月30日現在)







昭和 27 年 8 月、挙母駅(現・豊田市駅)構内(通称…若宮踏切)で自動車と衝突し脱線した列車→  
当時の中部日本新聞(昭和 40 年 1 月 1 日改題…現・中日新聞)三河版に載る。

昭和 30 年代に入ると踏切事故が急激に増大した。その対策として、乗客及び運転士の命を守る  
ため、誕生したのがパノラマカー(昭和 36 年 6 月 1 日)である。また、一般車の運転台の腰掛  
も嵩上げ(3400 系を除く)し、運転士の頭部がダンプカーの荷台より高くなるよう改造された。

あとがき

三河線が誕生して1世紀。一口に100年というが平坦な<sup>みちのり</sup>道程ではなかったであろう。そのうち私が関わった41年間でも紆余曲折が山盛り。

地場産業の輸送の手段として誕生した三河線は、自動車の発達と共に衰退の一途を辿ったといっても過言でない。もう一つは、貧乏会社だった三河鉄道は、寄贈や廉価な土地を求め敷設したため、曲線が多く時代が求めるスピードに遅れをとった事が致命傷となり、平成16年4月1日、両末端区間(吉良吉田～碧南間及び猿投～西中金間)の25kmが廃線となった。この世に誕生したものは、いつか、消えるが「わが故郷・三河線」は、永久に生き続けて欲しいと願っていた一人である。

三河線いや三河鉄道は、母なる川、矢作川に沿いながら敷設されたが、矢作川左岸側の線区は廃線の憂き目に遭っている。偶然かそれとも…。

三河線両末端区間が廃止されて早や10年。冊数にして丁度50冊、この写真が後世の人たちに役立てれば幸いである。今後も生ある限り三河線廃線区間を撮り続けたいと…。

写真・資料提供者・取材協力者及び参考文献

安藤裕之 稲輝義 磯貝咲生 岡本俊也 小笠原清和 小野田天 神谷公也 倉知満孝 倉橋春夫  
清水武 杉浦貫蔵 新實悦夫 新實真弥 林佳孝 原田栄 伴電吉 藤岡俊治 前田忠司 三浦哲夫  
三浦友弥 知立乗務区 豊田市幹事駅 東部支配人室 名鉄資料館 蒲郡市誌 幡豆町史 一色町誌  
刈谷町誌 高浜市誌 豊田市史 新編岡崎市史 名古屋鉄道史 名古屋鉄道百年史 西加茂郡誌 一色  
の心 かきつばた(1972.1973) 知乗の生い立ち 三河鉄道 三河線L E-car 依佐美の鉄塔 依佐  
美送信所記念館 神谷傳兵衛記念館 刈谷市郷土資料館 明治村・汐留パー 杉本美術館 松木島公民  
館 豊田市近代の産業とくらし発見館 松木島四百年史 写真が語る名鉄80年 昭和28年13号台風  
災害写真集 千葉市民ギャラリー・いなげ 鉄道ピクトリアル 愛三時報 朝日新聞 中日新聞 など

表紙の写真は、土橋・竹村間の麦畑の中を颯爽と走る6000系

裏表紙の写真は、平成25年10月27日、東京スカイツリーを背景に神谷パーを撮ったものです。

平成24年6月9日、挑戦したときは雨だったため、第1展望台(350m)は地上から見えるが、第2展望台(450m)は雲の中という写真(P12参照)になり、再挑戦しました。

参考…DVD持参者は、モノクロ写真をパソコンで色の変更をすればカラーになる写真が多い。



三河鉄道の社紋



岡崎電気軌道の社紋



名古屋鉄道の社紋

## 写真で見る 三河線誕生百年

発行 平成26年2月吉日

著者 愛知県西尾市 新實 守







